

平成28年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 学校紹介

本校は昭和48年に3つの中学校が合併統合して開校した、町に1つの中学校である。多古町には4つの小学校、県立高等学校、単位制私立高等学校、こども園があり、幼小中（高）の連携教育を推進し、「多古の子、町の子、みんなの子」の合い言葉のもと、町ぐるみで子どもを育てる風土のある地域である。

2 研究主題

生徒の学ぶ意欲を高める授業実践のあり方 — 基礎・基本の確実な定着を目指して —

3 研究の概要

(1) 児童・生徒の実態と課題

生徒の実態を千葉県との平均と比べると、平日のスマートフォンなどの使用時間が1時間を越える生徒が17.7%も多いことが分かる。そして、その結果が、そのまま平日の勉強時間の差にもなっていて、1時間以上勉強をする生徒が14.7%も少ない。しかし、生徒だけの問題ではなく、家庭学習の提出率がクラスによって90%を越えるところもあれば、20%を切るクラスもあり、担任の意識の違いも大きく感じられた。平成27年度と平成28年度の結果と比べると、平日1時間以上勉強している生徒は49.5%から61.5%と12%も向上した。また、平均正答率もどれも12ポイント以上低かったものが、一番離れている数学Aでも約6ポイントの差まで縮まった。このことから、さらに家庭学習の提出率を上げ、内容も充実したものとなるよう支援していく必要があると考える。

(2) 学力向上のための取組とその成果

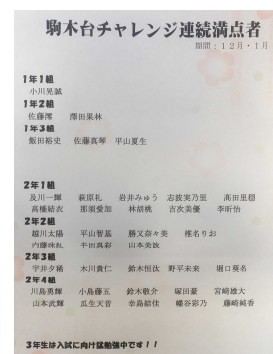
- ①授業規律の徹底 ②授業改善 ③学力向上の時間の設定 ④家庭学習の充実

『成果』

- ・2分前着席の徹底は、級長・副級長などが率先して呼びかけを行えるようになってきた。
- ・落ち着いた雰囲気ですぐに駒木台チャレンジに取り組むことができている。その結果、基礎・基本が身についてきたと感じる生徒が多くなってきた。
- ・4月の段階で家庭学習の提出率が20%を切っていた3年生のクラスも11月には60%まで上がっていた。また、1・2学年は提出率がどのクラスも80%後半まで提出率が上がってきた。

『課題』

- ・小中連携の授業規律は町の生徒指導部会で現在作成中である。
- ・町の行事等も多く、時間を作れず相互授業参観を十分行うことができなかった。
- ・学力上位の生徒の中から、理科や社会についても「駒木台チャレンジ」の時間にやってほしいという意見も出た。
- ・保護者との連携による家庭学習のチェックを行っているが、なかなか徹底するには至っていない。今後も学年通信やPTA保護者会、三者面談などで協力をお願いしていく。



4 今後の課題

普段から家庭学習をきちんと行っている生徒のほうが、保護者に家庭学習のチェックを受けている。学年便りやPTA集会の時だけでなく、定期的にお知らせを出したり現在の提出率を伝えたりしながら少しでも家庭での関心を高め、家庭学習の保護者との連携による相互チェックを徹底していきたい。